

ぐんこくしょうか てきはいくまん

#29 軍國唱歌 敵は幾萬 訂正版

作者：開成館音楽課（かいせいかんおんがくか）

刊行：明治37年（1904）



※左より、表紙、楽譜・歌詞、奥付

♪ 解題

■ 内容

『軍國唱歌 敵は幾萬 訂正版』は、表題に「軍國唱歌」とあるように、軍歌の一種である。明治27年（1894）の日清戦争から明治37年（1904）の日露戦争の間は、軍歌の出版が特に多かった時期である。歌い出しが「かがやく旭の」であるこの唱歌は、尋常高等小学校用として日露戦争下の明治37年に西野虎吉によって発行された。表紙裏に楽譜が、その後、歌詞が掲載されている。歌詞は14番まであり、全体で16小節の曲であるが、中盤の8小節の歌詞は1番から14番まで同じである。収録曲は、「敵は幾萬」1曲である。

■ 開成館

『敵は幾萬』の裏表紙には、著作者が開成館音楽課となっており、発行兼印刷者として西野虎吉と書かれている。西野虎吉は、大阪にある「河内屋佐助」という書籍の販売を行っていた会社（現・三木楽器）の幹部従業員で、「東京開成館」を創立し、大阪にある「河内屋佐助」の分社として、東京で

出版と書籍の販売を行っていた。また、「河内屋佐助」の書籍部も東京開成館の書籍を販売するのに、大阪開成館という名称を使っていたが、後に「河内屋佐助」も大阪開成館という名称で出版をするようになった。

■ 敵は幾万

この資料に収録されている唱歌とは別に、「敵は幾万」として広く知られているのは、山田美妙作詞、小山作之助作曲の「敵は幾万ありとても」から始まるものである。『學校新唱歌』や『学生・青年愛誦集』にも所収されており、軍人はもちろん、一般の人にもよく歌われた。旧制高校や中等学校では応援歌としてそのまま歌ったり、歌詞を応援風に変えたりして歌われた。この歌詞は山田美妙が編んだ『新体詞選 自由詞林』の中にあり、元々は「戦景大和魂」という8章から成る詩である。小山作之助は作曲時に8章の中から3章を選び、曲名も「敵は幾万」に改めた。なお、この曲につけた別の唱歌「進め矢玉」（中村秋香作詞）もよく歌われた。

山田美妙（1868-1910）は、東京出身の詩人、小説家、国語学者。言文一致体の創始者で新体詩の形式・韻律の開拓者でもある。小山作之助については、人物コラム3（p.22）を参照。

♪ 参考文献

- ・『學校新唱歌』東京声美会編 関書店 1912 [SH767.7/19]
- ・『学生・青年愛誦集』大光館編集所編 大光館書店 1930 [SH767.6/136]
- ・『日本軍歌全集』長田暁二編 音楽之友社 1976 [767.6/152]
- ・『日本音楽教育史』供田武嘉津著 音楽之友社 1996 [762.1/168]
- ・『徹底検証・日本の軍歌』小村公次著 学習の友社 2011 [767.6/264]
- ・『三木楽器史』三木楽器株式会社社史編纂委員会監修 田中智晃編著 大阪開成館 2015 [S673.7/M/1] ※県立川崎図書館所蔵
- ・『軍歌と日本人』大野敏明著 産経新聞出版 2019 [767.6/275]